

ロドリゴ・デ・ラトIMF理事会会長及び専務理事による
IMF総務会スピーチ
ワシントンDC, 2007年10月22日

1. 議長、総務、ゲストの皆様、IMFを代表して、皆様を会合にお迎えできたことをうれしく思います。また、私の友人で同僚でもあるボブ・ゼーリック(世界銀行総裁)を特に歓迎し、彼の素晴らしいスピーチに感謝したく存じます。ボブは、IMFと世界銀行が加盟国の人々の利益に貢献するという共通の目的や、改革に向けた共通のコミットメントについて一致していることを明確に示してくれました。ボブ、ようこそ。

世界経済の見通し: クレジット市場の危機が示すもの

2. 昨年我々が会合を開いたのはいわゆる機会に満ちあふれていた時でしたが、今回は不透明感に覆われています。過去数ヶ月、クレジット市場は激震に見舞われてきました。大半の地震がそうであるように、多くの人々にとっては遠くの出来事で、新聞で読むような話だったかもしれません。しかし、依然として余震に襲われるリスクがあり、これまでの混乱による影響をすべて把握するには時間がかかりそうです。我々は打撃を軽減するにはどんな行動を取ることができるか、そして今回の危機から何を学ぶことができるかについて考える必要があります。

3. 現時点における中心的な問題は、世界経済が転換点にあるかどうかという点です。今のところ、過去2年に比べペースは鈍化するものの、成長が持続すると思われま

● 先進国では、代表的な金融機関や企業のバランスシートは依然として力強く、労働市場は全般的に健全で、金融政策のフレームワークも高い信頼感を得ています。そのような理由から、我々は米国では成長が鈍化するもののリセッションに陥ることはなく、他の先進国では景気減速の度合いが米国よりも軽微にとどまると予想しています。

● 新興国経済は世界経済を安定させる役割を果たすようになりました。それは数年前には考えられなかったことです。新興国の多くでは国民がグローバリゼーションや、各国政府による適切な政策の恩恵を受けています。そのような理由から、我々は新興国の大半で極めて順調な経済パフォーマンスが続くと予想しています。

● 低所得国家は世界の金融市場にさほど組み込まれていませんが、彼らも好ましい世界経済の環境や政策フレームワークの改善による恩恵を受けてきました。我々は、彼らの見通しも明るいと考えています。

4. そう考えれば、いったいどこから不透明感が生まれているのか疑問に感じるかもしれません。不透明感をもたらしているのは、6ヶ月前に比べダウンサイドリスクがはるかに高まっていることです。クレジット市場の混乱は、ここ数年の好ましい経済環境を当然のものと考えてはならないという警告です。住宅市場の落ち込みと米国経済のサブプライム問題がどれだけ大きな影響をもたらすかは、まだはっきり分かりません。金融市場がさらに混乱し、住

宅価格が一段と下落するようなことがあれば、世界経済が下降局面に入りかねません。それが現実のものとなれば、すでに存在している他のリスクも大きくなる可能性があります。

● 今のところ、為替相場の動きは秩序を保っており、ファンダメンタルズに沿って推移しています。しかし、ドル資産に対する信頼感が失われればドルの急落を招いたり、自らドル資産急落の引き金を引くリスクがあります。また、ユーロ圏を含む為替相場が柔軟な国々の通貨が上昇すれば、その国の成長見通しを損なうリスクもあります。そのような環境の下では、保護主義的な圧力が高まる恐れが生じます。

● 多額の経常赤字のファイナンスを海外に依存している一部の新興国は、輸出に対する需要の落ち込みと金融市場の逼迫が重なり合い、危機に陥る恐れがあります。このような動きは、低所得国家の見通しも悪化させます。

● 中央銀行が、原油と食品価格の上昇が一部の国で引き起こしているインフレとの戦いに敗れるリスクもあります。

5. これらのリスクはいずれも、すでに合意している政策を行動に移すことの緊急性を高めるものです。主要国は、世界の不均衡を為替相場の動きだけで是正することはできないことを認識する必要があります。彼らは、今年初めにIMFが開いたマルチ・コンサルテーション(多国間協議)に基づくロードマップに沿ってサポートする政策措置を取り、多国間貿易協議を完結させるために必要なさらなる努力を行う必要があります。また先進国、途上国と

もに主要貿易国は多国間の貿易交渉を完了するべく一層努める必要があります。潜在的に脆弱な新興国は、危機が足元に及んだ場合に備える必要があります。さらに、政策当局者は中央銀行の独立性を尊重し、インフレに対する中央銀行の警戒をサポートしなければなりません。

6. 我々は将来のことも考えて対応しなければなりません。危機の影響はクレジット市場から実体経済に、個人や企業から政府に、そして世界全体に広がる可能性があります。我々はそれらの結果を予測及び検討し、政策対応に反映させなければなりません。これまでのところ、先進国の中央銀行は迅速かつ賢明に行動しています。彼らはクレジット市場の機能を支えるため流動性を供給し、経済見通しの変化に応じて金融政策スタンスを調整してきました。新興国の中央銀行も警戒を維持し、主な金融機関のリスク状況について詳細な情報を把握していることを確認しておく必要があります。影響を受けるすべての国々の政府は、歳入見通しを引き下げざるを得ない可能性があり、それに伴い歳出計画も見直す必要が生じる可能性があることを認識しなければなりません。一方、人口高齢化や危険な気候変動の問題も忘れてはなりません。むしろ、それらは一段と緊急を要する課題となっています。

危機の教訓

7. 我々は危機から学んだ教訓を振り返ってみる必要があります。我々はすでに、危機をなくそうとすることはできないことを知っています。それは地震が起きるのを禁じるようなも

のです。しかし、我々がさらけ出したインフラストラクチャーの弱点は修復する必要があります。規制面のインフラストラクチャーは、次の危機に対処する上で十分な力強さを備え、十分に簡潔なものでなければなりません。ここでいくつか例を挙げてみましょう。

● クレジット市場の危機を招いた一因は、投資家が十分なデュー・デリジェンスを行っていなかったことです。しかし、新たなストラクチャード・クレジット商品のリスクに関する透明性やディスクロージャーが乏しかったため、投資家がデュー・デリジェンスを実施できなかったことも事実です。そのため、我々は低コストでクレジット市場の透明性を改善する方法を探っていく必要があります。

● 金融のイノベーションは、リスクをバランスシートから切り離す銀行の能力を高めたようですが、再びリスクが高まるのを避ける能力は向上していないようです。このことは、監督当局や格付け機関が銀行の健全性や資本を評価する際、バランスシートに載っていないエクスポージャーにより注意を払う必要があることを示しています。

● 銀行が資金調達の上で証券市場への依存度を強めているため、流動性リスクに対する脆弱性が高まっています。規制当局は流動性に関する要件を評価する上で、こうした新たな現実を考慮する必要があります。

● 一部の分野、特にモーゲージ市場では、危機は消費者の教育や保護、簡潔なディスクロージャーが必要であることを浮き彫りにしました。我々は、これまでの危機の主な犠牲

者は返済能力以上の住宅の購入を勧められ、今それを失おうとしている人々であることを忘れてはなりません。

● 危機は、監督当局、規制当局、中央銀行、財務省が協調して行動することの重要性も示しました。さらに一部の国では、規制面のインフラストラクチャーを簡素化する必要性も明らかになりました。

8. おそらく最も重要な点は、今回の危機により、金融のグローバリゼーションの広がり、それがもたらすリスクが明らかになったことです。リスクにさらされているのは米国のローン組成業者ばかりでなく、ドイツや英国の銀行、東欧の資金の借り手、そしてアジアやアフリカの輸出業者にまで広がりました。このことは、金融市場に関する問題について多国間の協調が極めて重要であることを示しています。一部の国が協調して規制のあり方を修正することはできるでしょうが、彼らは影響を受けるすべての関係者を代表しているわけではないため、世界的に見て最適な解決策を見出すことは難しそうです。対応策を講じる必要のあるすべての国が参加し、自分の問題として考えなければ、最も優れた提案ですら、それを実際に運用することは非常に困難な作業となるでしょう。

9. IMFが関連の専門能力を持つ他の多国間機関と協力して参加することが重要なのは、そのためです。IMFは多数の国がメンバーになっており、多国間の議論の場を提供するとともに、議論を通じて導き出された結論に権威を与えることができます。我々は4条協議から金融セクター評価プログラムに至るまで、経済及び金融問題に関する必要な見解を

提示する様々な手段を持っています。しかも、我々が最近の金融市場のリスクについて問題が顕在化する前に警告したことに示されるように、IMFは独立したスタッフを抱え、知識ベースを蓄積しています。クレジット市場の危機は世界の金融システムを試す形となりましたが、今後もさらに我々を試すことになるでしょう。しかし、我々がそこから学び、その教訓を生かすために協力していくことができれば、我々は危機を通じて一段と力をつけることができるでしょう。

変化しつつある世界の中で変化を遂げるIMF

10. 次に、変化しつつある世界に対応するためにIMFがどのように変化しているか見てみたいと思います。クレジット市場の危機が世界的に拡散したことは、経済の統合や金融のグローバル化の進展に伴って発生した課題を如実に表すものです。我々がこれらの課題に対処するためには、多くの経済問題を多国間の枠組みの中で考えなければなりません。それらの問題としては、金融市場の監視及び規制、世界的な不均衡、危機の予防、貧困の削減、貿易の改革、高齢化問題、気候変動に対する対応などが挙げられます。これらはどの問題をとっても一部の国のグループだけで変化をもたらすことはできず、先進国、新興国の双方が責任を持たなくてはなりません。

11. IMFが適切で正当性を持った組織であればこそ、これらの分野すべてに対して重要な貢献を行うことができます。IMFは加盟国が金融のグローバル化による恩恵を受けると同時に、その副作用を抑えることを支援する用意をしていなければなりません。さ

らに、多国間による解決を最も必要とする問題に対する加盟国による一致協力した取り組みを支援する必要もあります。我々が現在進めている改革プログラムが非常に重要なのはそのためです。我々は変化しつつある世界に対応するために変化し、進化しなければなりません。ここで、IMFがどのように変化しているか、そしてIMFが今後直面するであろう課題のいくつかについて触れたいと思います。それらは、クォータ(出資割当額)および発言権、サーベイランス(政策監視)、危機予防、金融市場に関する問題、低所得国における業務、我々の組織にとっての持続可能な収入モデル開発に向けた作業などの分野です。

12. まず初めに、クォータ(出資割当額)および発言権に関して我々が行っている改革について述べてみたいと思います。IMFのガバナンスに関する改革は短距離競争ではなく、マラソンのようなものです。我々が過去1年間に通過したマイルストーンは、シンガポールで開かれた昨年の年次総会で打ち出された総務会決議に盛り込まれた内容ほど劇的なものではありません。しかし、それらは非常に重要なものです。現在は加盟国の間で、改革において役割を果たすために、新たなクォータの主な要素、特に購買力平価を用いたGDP算出の必要性について、見解が一段とまとまってきました。それ以上に根本的な問題として、新興国や発展途上国の議決権を全般的に引き上げる必要があるというコンセンサスが形成されています。我々はシンガポールで開かれた昨年の年次総会前の水準に比べクォータを少なくとも10%引き上げることや、基礎票を倍以上の水準に引き上げることによって低所得国の発言権を守ることに合意に達しました。これらはいずれも、IMFの正当性を守るために必要なガバナンス改革にとって不可欠な要因です。当然ながら改革プロセスは完了させる必要があり、それに伴う課題や必要なコミットメントを軽く見てはいけません。しかし、

私は加盟国が課題に立ち向かっていくものと信じています。皆さんはシンガポールで改革へのコミットメントを示し、週末に開かれた国際通貨金融委員会(IMFC)でもコミットメントを示しました。皆さんはそれを再び示すことができます。1年後に再びワシントンに戻ってきた時、IMFは革新的なガバナンスの改革を完了し、初の多国間機関となっているでしょう。

13. 次に、サーベイランスについて述べたいと思います。6月に新たなサーベイランスに関する決定で合意したことについて、スタッフやメンバーに祝意を示したいと思います。新たな決定は過去30年で初めてのサーベイランス枠組みに関する大きな修正で、サーベイランスに関する過去初めての包括的な政策方針です。それは、サーベイランスが我々の中心的な使命、つまり各国の対外安定性を促すことに焦点を当てる必要性を再確認しています。さらに、我々が一貫して強化してきた分野である為替分析の重要性についても再確認しています。私は、脆弱性や為替相場に関する我々の分析結果は、都合の悪い事実を示す場合があることを認識しています。しかし、我々は関連する問題が複雑で敏感なものであることにそれなりに留意しながらも、それを実行しなければなりません。

14. 今年は初めてのマルチ・コンサルテーションがうまく完了しました。このプロセスは世界の不均衡を是正する対策について、加盟国の意思を明確にする上で役立ちました。さらに、それは他の多国間問題を解決するために使われる可能性もあります。そのため、それは我々の加盟国にとって重要な新たなツールとなります。

15. 我々は危機の予防につながる新たな融資制度を編み出すため、かなりの努力を行いました。その融資制度には、自動的に発動できること、当初融資額の大幅な上積み、高水準の融資枠など不可欠な要因が含まれています。しかしながら、これまでのところ、この融資制度が利用されると確信できるほど十分な加盟国のコンセンサスは得られていません。加盟国はその状況に甘んじてはいけません。新興国市場の危機はまだ過去のものとはなっておらず、危機が襲い掛かるまで新たな手法に関する決定を先延ばしにすれば、過ちを犯すことになります。

16. IMFは金融市場に関する問題について掘り下げる作業を進めました。その過程で我々はマクドナー委員会の成果を活用しました。ここで、ビル・マクドナー氏や委員会メンバーの活動に対し、再び謝意を表したく思います。我々は4条の業務を果たす上で、金融市場専門家の参加を増やしました。IMFの各地域局は金融問題に取り組むべくキャパシティを強化しており、レポートの中でもこれまで以上にこれらの問題に重点を置いています。我々は金融市場の脆弱性を測るIMFの分析ツールを改善しています。これらの変更はすべて、IMF技術支援や、金融セクター評価プログラム報告書(FSAP)及びFSAPアップデートに対する要請増に反映されています。

17. 我々はこれまで低所得国に関する活動の焦点を改善してきました。それには、援助資金の流入に関する予測を改善し、各国が特に保健や教育を中心とする社会的プログラムを拡大するのに必要な財政余地を確保することが含まれます。我々は今年、3番目のアフリカ技術支援センターを設立するなど、価値の高い技術支援活動を強化してきました。さらに、

我々は低所得国で経済成長率を高め、貧困を一段と削減するためにカギを握る分野で、世界銀行との協力関係を強化しています。その過程で我々はペドロ・マラン氏が率いる委員会の成果を活用しています。この場を利用し、ペドロと彼の委員会メンバーがこの問題について果たした重要な業績に対し、再び謝意を表したく思います。

18. 最後に、我々はIMFの新たな収入モデルの作成及びコンセンサス形成に向け、大きく前進しています。我々は新たなモデルの必要性を全面的に受け入れ、モデルの詳細について大きなコンセンサスができています。収入モデルに関する作業を行う上で、我々はアンドリュー・クロケット氏が率いる外部委員会の助言や分析を役立てました。私はアンドリューと彼の委員会メンバーが行った活動に対し、特別の謝意を表したく思います。支出面では、我々は中期的な予算編成を行い、今後3年間に実質で支出を6%削減する予算を作成しました。現在、我々は将来に向けて収入と支出を固める政策についてコンセンサスを得る必要があります。幹部やスタッフは様々なシナリオを提示する用意ができています。加盟国にも、IMFの健全な財政基盤を維持するために必要な決定を下す準備を整えて欲しいと考えています。

結論

19. 最後に、少し個人的な話をさせていただきたいと存じます。私は過去3年半にわたりIMF専務理事を務める榮譽をさずかりましたが、この期間は私の人生の中で最も輝かし

い時期の一つだったと考えています。もちろん、専務理事はIMFを所有しているわけではなく、しばらくの間その業務の面倒を見ているに過ぎません。最もうまくいけば、熱心なスタッフや加盟国が協力しながら活動するのを手助けすることになります。我々が着手した中期戦略に基づく改革は、私が着任する前に始まり私が退任した後も続く進化プロセスの一環だと考えています。IMFが進化する能力は、IMFが金融のグローバルライゼーションに伴う世界の変化に応じて変化を遂げつつあることに示されています。また、IMFが改革の課題を自ら積極的に設定、推進していることや、IMFが過去2ヶ月の間に専務理事とIMFC委員長の交代をスムーズに行ったことにも示されています。この場をお借りして、卓越した才能とエネルギーを年次総会及びIMFにもたらす人物に祝意を表し、彼を歓迎したいと思います。その人物は、私の後任となるドミニク・ストロスカーン氏です。

また、週末に行われたIMFC会合を非常に効果的かつ品位を持って取り仕切ったトンマーゾ・パドア・スキオツパ氏に祝意を表し、歓迎したいと思います。さらに、この機会に10年近くに渡ってIMFC委員長として優れた才能を発揮し、現在は英国の首相を務めているゴードン・ブラウン氏にも感謝と祝意を表さずにはられません。

20. 専務理事を務めている期間、私は非常に多くの人々の友情や支援に恵まれました。アン・クルーガー、ジョン・リップスキー、アグスティン・カルステンズ、ムリロ・ポルトガル、加藤隆俊の各氏ら、私と共にIMFの幹部を務めた同僚、そしてジム・ウォルフエンソン、ポール・ウォルフォウィッツ、ボブ・ゼーリックの各氏ら、世界銀行の同僚に感謝いたします。また、私を専務理事に選び、支えてくださった理事会に感謝したいと思います。しかし、私がとりわけ強く感謝したいのは、IMFやその使命のために献身的な働きをしてくれたスタッフです。外部

の人々は時々、国際機関のスタッフは変化に抵抗しがちだと考えます。しかし、その批判はIMFのスタッフには当てはまりません。私が彼らに変化を求めるたびに、困難に向けて立ち上がってくれました。実際、彼らは一段と変化を推進し、IMFに変化をもたらす牽引役となってきました。また、総務の皆様にもこれまでいただいた支援に感謝するとともに、皆様が1年前にシンガポールで、そして63年前にIMFを設立した人々が一致団結して協力してきたように、今後も引き続きクォータや収入など重要な問題について、力を合わせてIMFを支援して下さるようお願いいたします。

21. どうもありがとうございました。